

抵抗運動の再創造を

「皆が反対すれば止められる」

たなくともよい、まず第一弾という気楽さ。③非系統的、非中心的、非組織的な実践を、抵抗運動の再創造に。④想像力で

おかもと・ゆきこ 1967年那覇市生まれ。編集者

みをおこなった大学関係者の連絡網を継続・発展しつつ、そこから広がったネットワークに大学生・大学院生、会社員、編集者、フリーター、芸術家、学芸員などが乗り合い、口コミやメールで情報を交換しあいアクションを企画する中で参加者は日々増え続けている。

現在決定しているアクションを紹介しよう。

「シスター・スクランブル」。十一月二十三日から三十日の一週間、沖縄大学ミニシスターにて午後二時から八時まで、沖縄をめぐる映像の連続上映、トーク、ミニ・シボなどを目替わりで開催。詳細なプログラムは後日発表されるが、「復帰」前後の揺れる沖縄を渦中でとらえた森口駱のドキュメンタリー作品や、シスターの重層する記憶をアンタジとして浮きさせ、わたしたちの歴史的想像力を解放する高嶺剛監督作品、琉球弧を記録する会の『島トウバで語る戦世』、辺野古を撮ったドキュメンタリーなどを予定している。期間中、ミニシスターは合意していないプロジェクトの日々更新されるアクション情報を掲示し、プログラムを配布する、スクランブル(交差点)の役割を担う。

「自由・開放・大学企画」。参加者の多数を占める大学教員たちがコアホーシションしながら、自分の授業の二コマを公開するもの。大学の授業なんて難しそう、など思わずに、気軽にのそぎに来てほしい。いま沖縄はこうなっているのか、これからどうしていけばいいのか、知識を学びあい、知恵をだしあい、わかちあう、絶好の機会であ

あるのだから。

公開授業はさらに増殖中。海を越えた各地の大学でも「合意していないプロジェクト」に共鳴した公開授業が企てられている。

学生たち、アーティストたちも独自のアクションを計画、実践しはじめているようだ。この間シスターのあちこちで、立ち上がった声とどあい、共鳴し、声を増幅していく装置のひとつに、このプロジェクトがなることを願ってやまない。

くりかえそう、「みんなが反対すればやめさせられる」。

「同意していないプロジェクト」の詳細・最新情報は、Webサイト：<http://disagree.okinawaforum.org/>参照。問い合わせは projectdisagree@okinawaforum.org

【プロジェクトの公開授業】

十二月十六日午後二時から(沖大1号館6階)安里葵子『Marines Go Home: 辺野古・梅香里・矢目別』の藤本幸久監督トーク、二十一日午前十時四十分から(沖国大5-1106号)黒澤亜里子・阿部小涼「シエゴ」訴訟の射程と辺野古の今」、二十四日午後二時四十分から(沖縄キリスト教大学)新垣誠「アメリカ軍複合体と日本軍産業の現在」、二十四日午後五時五十分から(琉大法101教室)高作正博「法哲学から見る『合意』」、二十八日午後二時から(沖大3号館112室)宮城公子・西泉「異文化コミュニケーション」、二十九日午後二時四十分から(琉大共通教育棟2-1101室)河村雅美・阿部小涼、ゲスト:内海正三・奥平一「開発に抗する」、三十日午前十時二十分から(琉大法102教室)新城郁夫・田仲康博・阿部小涼・多田治「沖縄をめぐる文化政治」、

十二月二日午後二時から(沖国大5号館107教室)多田治・花城郁子・大胡太郎・佐藤学「復帰・海洋博から学ぶこと、合意していない」、八日(沖縄キリスト教大学)新垣誠「オキナワを平和学する」。

なる。昨年へのり墜落・米軍による大学占領という事態に対して真摯申し立てのたまきまな取の組